令和8年度SMI都心ライン実証実験について（概要）

資料2-3

堺市 SAKAI CITY

01 SMI都心ラインとは

- SMI都心ラインは、
  ・自動運転等の新技術を活用・導入した車両
  ・待合環境の向上、待合・休憩スペース（パークレット）や次世代モビリティとの結節、情報発信の機能を有した乗降場所
  を一体的に整備するもの。
- 人口減少・高齢化の更なる進展やバス運転士不足等の中においても、SMI都心ラインにより、既存バス路線における高頻度な運行サービスを維持向上しつつ、省人化の効果を他路線に波及させて地域公共交通の維持・確保につなげるほか、高齢者や障害者などすべての人にとって便利・快適でバリアフリーな移動環境の構築を図る。
- 2027年度の自動運転レベル4運行（一部）、2030年度頃に全区間レベル4運行をめざす。



SMI都心ラインの位置



SMI都心ラインのイメージ

02 SMI都心ライン導入スケジュール・今年度の位置づけ

	2025～2027年度	2028年度～2030年度頃
ART車両	2026年度 統一的なデザインの検討 バリアフリーな車両の導入検討・わかりやすい案内の検討 自動運転技術等の導入に向けた実証実験（レベル2～4） 快適な乗り心地の実現に向けた実証実験 安全な運行の実現に向けた実証実験 バリアフリーな乗降の実現に向けた実証実験	電動車両導入 自動運転技術等の実装
ARTステーション	ARTステーション（パークレット等）の段階的な整備 統一的なデザインの検討 待合・休憩スペース（パークレット空間）の暫定整備・効果検証 わかりやすい案内の実施・効果検証 次世代モビリティの活用にあわせたポート設置	ARTステーションの設計 ARTステーションの施工
道路改築	駐停車対策	
次世代モビリティ等	次世代モビリティの導入 次世代モビリティの活用にかかる検討 実証実験	実装
CaaS	ニーズ把握、コンテンツの検討　情報・サービスの実験的提供	情報コンテンツの提供

項目	今年度の位置づけ
ART車両	自動運転レベル4の申請に向け、自動走行（3ヶ月間）を実施。自動走行の主な阻害要因である駐停車車両の回避を検証。
ARTステーション（バス停）	バス停付近に待合・休憩スペース（パークレット空間）を設置し、効果等を検証。 わかりやすい情報案内として、待合・休憩スペースの設置にあわせてデジタル技術を活用した情報案内を行い、人流の変化を検証。
道路改築	路上駐車車両対策として、停車帯を部分的に縮小し、自動運転車両の走行空間確保について検証。
CaaS	ARTステーションにおける情報案内の中で、SNSや公共交通の発車時刻等のリアルタイム情報発信による利便性向上について検証。

令和8年度SMI都心ライン実証実験について（概要）

資料2-3

堺市 SAKAI CITY

- 自動運転レベル4の実現に向けた実証実験として、手動介入の主な要因である駐停車車両の回避実験を実施することに加え、大型車の課題を抽出するための自動走行を実施。信号協調については、継続してデータ収集を実施。
- バス利用環境の向上に向けた取組として、バス待ち環境改善の実証実験では、バス停付近における待合・休憩スペース及び情報発信の実験を実施し、人流の変化を確認。

実験概要

①自動走行実証実験		②走行空間整備実証実験		③待合・休憩スペース実証実験		④情報発信実証実験	
	**レベル2自動走行（運転士が同乗）を実施** ・小型バス走行 12月上旬～1月中旬 ・大型バス走行 1月中旬～2月末 ・信号協調は引き続き実施。		**走行空間整備を実験** ・停車帯を縮小し、駐停車車両を抑制することで走行空間を確保することで自動率の向上を図る		**待合・休憩スペースの新規追加して実施** ・堺東商店街前（ファミリーマート前）、ジョルノ前に加え、堺駅前広場で実施予定。 ・滞在時間や利用率を調査し、居心地の良さを検証		**情報発信箇所の追加** ・ジョルノ前に加え、堺駅前広場で実施予定。 ・R7年度にニーズが高かった運行情報等のリアルタイム情報を発信予定 ・情報発信による効果を検証。

